

日本技術士会、地盤工学会共同企画 講演会

2020年2月14日 13:15~16:50

「大災害にどう備えるか」-令和の大水害と歴史的災害 開催される！

日本技術士会長野県支部と地盤工学会中部支部信州地盤環境委員会は、建設コンサルタンツ協会の共催をえて標記講演会を開催しました。

当時は会場となった信州大学工学部信州科学技術総合振興センター3階がほぼ満席の240名余の参加がありました。

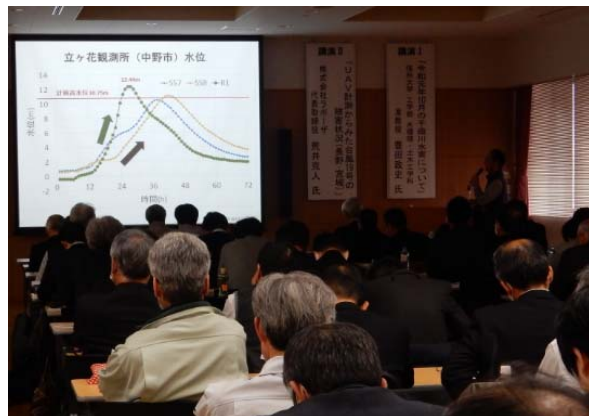
講演会では、3氏にそれぞれの分野から台風19号災害の事例も含め、災害に関する貴重なご講演を頂きました。



- ①令和元年10月の千曲川水害について（信州大学工学部水環境・土木工学科准教授豊田政史様）
- ②UAV計測から見た台風19号の被害状況（（株）ラポーザ代表 荒井克人様）
- ③信州の歴史的な大規模災害地点を歩く（砂防フロンティア整備推進機構専門研究員 井上公夫様）

今回の講演会は台風19号災害をテーマとし、災害、今後の防災を考える機会づくりを目指しましたが、参加者の関心が高く、予定した定員を大きく超えた人数となりました。

豊田先生からは、千曲川の水害が状況を、荒井様からドローンをつかった災害調査について、井上様から膨大な史料と現地調査に基づく県内の大きな災害地の紹介をしていただき、3時間半をこえる長時間にも拘わらず、参加者は熱心に聴講していただきました。最後に長野高専の古本先生から、今日を契機に今後もおきるだろう大災害に我々をどう対応すべき 考えていく出発点としたいとまとめていただきました。



(写真) 左：豊田先生



中：荒井様



右) 井上様



会場内のパネル展示